
近未来視

よわむし

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

近未来視

【Nコード】

N94770

【作者名】

よわむし

【あらすじ】

さくつと読めるショートショートでございます。

「実はさ、今まで言っ てなかったけど・・・、
オレ、超能力あるだよね。」

友人のケイスケが突然そんなことを言い始めた。

「は？」

僕は最初言っ てる意味がまっ たくわからなかった。

「超能力・・・って・・・、スプーン曲げたりとか？」

「いや・・・、そういうんじゃないんだけどさ。」

「え？ 触らずに物を動かしたり？」

「そっ いうのもできない。」

「じゃあ、何ができるのさ。」

自分はケイスケの言うことがまっ たく信じられなかったが、
あまりにケイスケが真剣な顔をして言うので、
思わずいろいろ質問してしまった。

「うん・・・。あのさ・・・。
オレ、未来が見えるんだ。」

「え？ 未来が見えるって・・・。」

予知とか予言ってこと？」

「そう。」

「ノストラダムスみたいなの？」

「そんな大したものじゃないんだ。
ほんのちよつと先の未来が見えるだけ。
しかも、それは一年に一回だけなんだ。」

「へー。でも、すごいな。」

ケイスケの真剣なしゃべりに、
だんだん僕も本当なのかと思えてきた。

「で、ちょうど今日がその日なんだよ。」

「え？ 今日、未来が見える日なの？」

「うん。」

「それは突然見えるものなの？」

「ううん。集中したときだけ、
目の前にいる人の未来が見えるんだ。」

「マジで??」

え！ じゃあ僕の未来見てよ！」

僕は気づくとケイスケの言葉を信じて、

すっかり興奮してしまっていた。

「うーん。いいけど、

ほんとに近い未来が見えるだけだよ？」

「近い未来でも、全然かまわないよ！
ほんとに見れるの？」

「わかった。じゃあ、
お前の未来を見てみるな。」

そういつて、ケイスケは目をつぶって
何かに集中し始めた。

「うーん・・・。」

ケイスケはうなり始めた。
手はしっかりと握り締められ、
額には汗をかいていた。

気づくと、僕も手に汗をかいていた。

「うーん・・・、見える・・・。」

ケイスケの言葉に僕はどきどきしていた。

「お前は・・・あと・・・30秒後に・・・」

「30秒後!？」

「・・・『えー、なんだよー。それー。』・・・って言う・・・。」

「は？」

「・・・。」

ケイスケは目を開けていた。

「え？　それだけ？」

「うん。」

「えー、なんだよー。それー。・・・はっ！」

本当にケイスケの予言は当たっていた。
でも、僕は全然嬉しくなかった。

（後書き）

予言を聞くことによつて発生する未来。

そんなことを考えていると、こんな話ができました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9477o/>

近未来視

2010年11月16日05時13分発行